

感動一点の場

『春耕』（北海道議会事務局蔵）
1950年 小川原 脩 画



題名に「春耕」とあるとおり、まだ雪が残るニセコ連峰、春紅葉と呼ばれる色鮮やかな山々を背景に、畑を耕し始める様子が描かれています。1950（昭和25）年当時、土を起こし、畝を作り、といった農作業は農耕馬の力で行われていました。たくましい体躯の大きな馬が、プラウと呼ばれる農機具を引いて土を起こします。この後、昭和30年代にはトラクターが活躍する時代へと移り変わりました。倶知安の地で行われていたかつての農耕の姿、馬文化を伝える貴重な絵画ともいえます。

この作品は、北海道庁のすぐ南に位置する北海道議会庁舎の議長室に掛けられています。小川原脩記念美術館友の会が長年手掛けてきた所蔵調査の記録によれば、岩本政一議長時代（昭和38～42年）に道議会事務局へ収蔵されたと伝わっています。通常は一般公開されておらず、また、所蔵されてから貸出などで公開されたこともなかったようで、なかなか目にする機会のない作品です。雄大な倶知安の大地とそこに営まれる人々の暮らしが、力強く大らかにうたわれている本作は、8月10日から美術館で開催される「開館20周年記念特別展 小川原脩の世界」で展示されますので、どうぞこの機会にご覧ください。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

—2種の静かな入れ替わり—

トゲトゲのラグビーボールのような実をつける植物、オナモミをご存じでしょうか。熟した実は服や髪によくくっつくため、「ひっつきむし」という名前で呼ばれていたり、子ども服などによく使われる面ファスナーのアイデアのもとになったりと、身近な植物です。しかし今、そんなオナモミに危機が迫っています。

8月も終わりに差し掛かった尻別川で、砂地に生えたオナモミをよく観察してみると、もともと日本に生えているオナモミとは実や葉の形の異なる外来種、オオオナモミだということがわかりました。その周辺ではオナモミの姿は見られず、オオオナモミだけが生える状態になっていました。1929年に岡山県に移入して以降、西日本を中心に「入れ替わり」が起きており、オナモミが絶滅した地域も複数あります。まるで少しずつ画像が変化するクイズのように徐々に入れ替わっていったため、気が付いた時にはすでに手遅れになっていたというわけです。

倶知安風土館に収蔵している植物標本を見ると、倶知安町では1956年にオナモミが採集されており、その頃は、確実にオナモミが生えていたことがわかります。北海道や東北地方では、まだ比較的オナモミが生息しているようですが、それもいつまで続くのかはわかりません。

あなたの隣人（オナモミ）も、知らぬ間に別人に替わっているかもしれません・・・

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲砂地に生えるオオオナモミ（尻別川にて）

ふる探訪

436回

展覧会のお知らせ

■開館20周年記念特別展「小川原脩の世界」

北海道立近代美術館・北海道庁・北海道議会・北海道大学・倶知安小学校の所蔵作品を集めた特別展。普段は当館で触れることのできない作品、さらには一般に公開されていない作品も含め、小川原脩の新たな魅力をご紹介します。

会期：8月10日(土)～11月10日(日)※初日観覧無料

会場：第1展示室

■企画展示

しりべしミュージアムロード共同展

「晴れ ときどき曇り、ところにより雪」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する5つのミュージアムの共同企画展。天気をテーマに、当館では「青空！」と題して爽やかな作品を多く紹介しています。

会期：開催中～9月23日(月)

会場：第2展示室



アート・イベントのお知らせ

■アート・トーク

「小川原脩の世界」

開館20周年記念特別展「小川原脩の世界」を説明します。

日時：8月10日(土)14時～14時30分

お話し：沼田絵美（当館学芸員）

会場：当館第1展示室（展覧会初日のため無料）

「小川原脩～シュールな世界」

戦前の東京時代、小川原脩が熱心に取り組んだシュルレアリズム（超現実主義）を紹介します。

日時：8月17日(土)14時～14時30分

お話し：柴 勤（当館館長）

会場：当館映像ルーム（無料）

「小川原脩～白亜館を描く」

「小川原脩の世界」の珍しい建物の出品作「工学部校舎」について詳しく話します。

日時：8月31日(土)14時～14時30分

お話し：沼田絵美（当館学芸員） 会場：当館映像ルーム（無料）

■土曜サロン

世界美術館紀行V～アメリカ編～「ホイットニー美術館／フルック・コレクション美術館／バーズ財団美術館」

今回は、お話しと映像で、アメリカの個性的な美術館を訪ねます。

日時：8月3日(土)14時～15時30分 お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

アート探訪くみて・きいて>33～ポスト印象派②～「スーラと新印象主義」

印象主義の表現を科学的に推進、点描法を用いて色彩効果を追求した新印象主義を紹介します。

日時：8月24日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)
高校生 300円(200円)
小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
8月の休館日 毎週火曜日
5～9日（展示替えのため）

日本の文化、ここにあり

東京の芝大神宮へ行ってきました。平安時代の創建という千年の歴史を誇りますが、そこは都心の神社、拝殿はごちんまりとして実にかわいらしく、細部に至るまで丁寧な作りで、日本の装飾的で華麗な伝統様式を見事に伝えています。

その後、19世紀末のウィーン美術の展覧会に行くと、ここにも日本美術が見え隠れ。浮世絵を用いたポスター、金箔を多用したものや掛け軸のような縦長の絵画、さらに工芸品や家具にも日本的な要素が入り込み、思わず先ほどの神社を思い出したのです。

館長 柴 勤

夏休み期間は小中高生無料

8月31日(土)まで、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。夏休みは美術館へ！